

上尾 歴史散歩

230 上尾の古い地名を

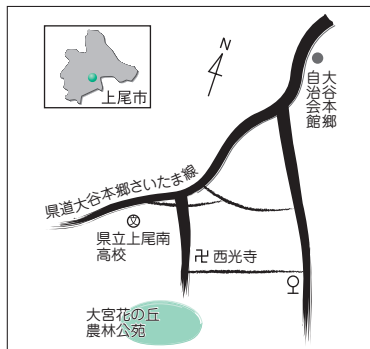
■大正期の「大旋風」に襲われた地区を歩く ～戸崎、中新井、大谷本郷～

「ぐるっとくん」を戸崎で下車し、七十メートルほど北上し左折する。この辺りは左右に豊かな農地が展開しているが、道路はやがて戸崎地区から中新井地区に進むことになる。三百五十メートルも歩くとやや低地の三差路となる。今度は右折して北上する。百メートルも歩くと右手に大きな伽藍が見えてくるが、これが天台宗の西光寺である。本尊の「木造阿弥陀三尊立像」は市の指定文化財でもあり、早速参拝することとする（『上尾市史第九巻』）。



市指定文化財「木造阿弥陀三尊立像」のある西光寺

西光寺の所在地は中新井の小巷「相野谷」であるが、同寺はかつて村の東方「寺家分」にあり、後に現在地に移されたと伝えられている。ところで、この西光寺は、大正十五（一九二六）年九月四日午前十時五十分ころ突如「大旋風」に襲われ、本堂、観音堂、鐘楼などが全壊している。この時の大旋風は、現さいたま市西区清河寺地区より起こったとも伝えられ、横幅二百メートルほどにわたり住家、樹木、作物を巻き上げ散乱させ、通過した村々に大被害を与えている。大旋風は清河寺から西新井（さいたま市西区）を襲い、それより上尾市域の中新井地区、大谷本郷地区を通り、鴨川を越えて別所地区（さいたま市北区）にも大被害を与え、現上尾市愛宕三丁目の山林地帯で消滅したとも伝えられている（『上尾百年史』・『上尾市史第四巻』）。



清河寺から別所までの五地区の死者は九人、うち三人は大谷本郷の住民で、住家の崩壊で当主夫人、祖母、孫の三人が圧死している。重軽傷者は五地区で七十一人、うち上尾市域は九人、家屋の倒壊八十一戸、うち上尾二地区では二十九戸である。大谷小学校は大旋風の通り道から若干ずれていたため、立木は倒されているが、校舎の崩壊は免れたようである。

いずれにしても「旋風襲来」には予兆が無かったため、住民たちの混乱は大変なものであったと、当時の記録は伝えられている（前掲書）。

西光寺の西側の道路を二百五十メートルほど北上すると、県道大谷本郷さいたま線に出合う。右折して県道を八百メートルも北方方向に歩くと、右手に大谷本郷自治会館が見える。入り口では元禄二（一六八九）年建立の庚申塔が参拝者を迎えてくれるが、ここは江戸時代の千光寺の跡地であり、当時所在した観音堂が残されている。観音堂に参拝し、残されている石造仏などを拝観することになるが、「大旋風」はこの地より東方を通過したものと推定される（『上尾市史第九巻』）。

（元埼玉県立博物館長・黒須茂）

わくわくクイズ

○に入る文字や数字を当ててください。

市民活動支援センターが5月15日(土)、JR上尾駅東口○○○○○3階に開所します。

(ヒントは5ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、5月20日(木)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先：〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス：s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は6月号のこのコーナーで。前号の答えは「ふれあい」でした。ご応募ありがとうございます(応募者43人)。

市の人口・世帯
(平成22年4月1日現在)

22万6,851人
男/11万3,469人
女/11万3,382人
※前月より194人増。

9万1,531世帯

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。